

## 大都市高齢者基盤研究テーマ 2022年度 業績リスト (論文・学会発表・著書)

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)  
二重下線=常勤研究員、下線=非常勤職員、破線=研究生、連携大学院生等  
波線=学振特別研究員

### <令和4年度>

#### 1 論文(誌上発表) : 原著

① 著者名、論文名、誌名、巻(号)、最初と最後の頁、発表年、(査読)、(IF値)

1. ★◎Kobayashi E, Harada K, Okamoto S, Liang J: Living alone and depressive symptoms among older Japanese: Do urbanization and time period matter? *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences* (Online first: 22 December 2022) <https://doi.org/10.1093/geronb/gbac195>. (査読あり)[IF 2021:4.942]
2. ★◎Murayama Y, Hasebe M, Yamazaki S, Yamaguchi J, Kobayashi E: Social work for vulnerable and marginalized people during COVID-19 in Japan. *Asian Social Work and Policy Review*. (Online first: 13 March 2023). 2023. (査読あり) [IF 2021: 1.039]
3. ★◎Murayama Y, Yamazaki S, Hasebe M, Takahashi T, Yamaguchi J, Kobayashi E: Psychological factors that suppress help-seeking among middle-aged and older adults living alone. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2022, 19(17):10620. (査読あり) [IF 2021:4.614]
4. ★◎Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Fujiwara Y: The effects of reciprocal support on mental health among intergenerational non-relatives: A comparison by age group. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 2022, 99:104601. (査読あり) [IF 2021: 4.163]
5. Nemoto Y, Nonaka K, Kuraoka M, Murayama S, Tanaka M, Matsunaga H, Murayama Y, Murayama H, Kobayashi E, Inaba Y, Watanabe S, Maruo K, Fujiwara Y: Effects of intergenerational contact on social capital in community-dwelling adults aged 25-84 years: a non-randomized community-based intervention. *BMC Public Health*, 2022, 22:1815. (査読あり) [IF 2021: 4.135]
6. Ogawa S, Suzuki H, Takahashi T, Fujita K, Murayama Y, Sato K, Matsunaga H, Motohashi Y, Fujiwara Y.: Suicide Prevention Program with Cooperation from Senior Volunteers, Governments, and Schools: A Study of the Intervention Effects of “Educational Lessons Regarding SOS Output” Focusing on Junior High School Students. *Children*. 2022; 9(4):541.
7. ★◎Okamoto S, Kobayashi E, Komamura K: The retirement-health puzzle: A sigh of relief at retirement. *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*. (Online first: 31 August 2022). Doi: 10.1093/geronb/gbac127 2022. (査読あり) [IF 2021: 4.942]
8. ★◎Okamoto S, Kamimura K, Komamura K: COVID-19 vaccine hesitancy and vaccine passports: A cross-sectional conjoint experiment in Japan. *BMJ Open*, 12(6).2022. (査読あり) [IF 2021: 2.692]
9. ★◎Okamoto S: State of emergency and human mobility during the COVID-19 pandemic in Japan. *Journal of Transport & Health*, 26(101405). 2022. (査読あり) [IF 2021: 2.796]

10. Tran Ngoc Hoang P, Kadota A, Yano Y, Harada A, Hayakawa, Okamoto S, Miyagawa N, Kondo K, Okuda N, Kita Y, Okayama A, Fujita Y, Maegawa H, Miura K, Okamura T, Ueshima H: Effect of diabetes and prediabetes on the development of disability and mortality among middle-aged adult Japanese: a 22-year follow-up of NIPPON DATA90. *Journal of Diabetes Investigation*. (Online first: 19 June 2022). 2022. (査読あり) [IF 2021: 3.681]
11. ★◎小林江里香, 植田拓也, 高橋淳太, 清野諭, 野藤悠, 根本裕太, 倉岡正高, 藤原佳典: 「通いの場」の類型別にみた参加者の多様性と住民の主体性—高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から. *日本公衆衛生雑誌*, 69(7), 544-553, 2022. (査読あり)
12. 植田拓也, 倉岡正高, 清野諭, 小林江里香, 服部真治, 澤岡詩野, 野藤悠, 本川佳子, 野中久美子, 村山洋史, 藤原佳典: 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. *日本公衆衛生雑誌*, 69(7), 497-504, 2022. (査読あり)
13. 野中久美子, 村山洋史, 村山幸子, 高橋知也, 小林江里香, 藤原佳典: 高齢者を対象としたサロンの活動休止に影響する要因: 都市部での検討. *応用老年学*, 16(1), 49-57, 2022. (査読あり)

## 2 論文(誌上发表) : 総説

① 著者名、論文名、誌名、巻(号)、最初と最後の頁、発表年、(査読)、(IF値)

1. ◎Okamoto S, Komamura K: Towards universal health coverage in the context of population ageing: A narrative review on the implications from the long-term care system in Japan. *Archives of Public Health*. 80(210). 2022. (査読あり) [IF 2021: 2.736]
2. 村山陽: 地域社会共生に向けた孤立・孤独対策, *老年医学*, 2022, 60(8), 723-726.

## 3 学会発表(国際)

① 発表者名、発表タイトル、学会名、開催地、開催日

1. Yoh Murayama: The impacts of an intergenerational program in Japan: Evidence from the REPRINTS Project. International Conference on Intergenerational Learning, online, face-to-face at The University of Hong Kong, Hong Kong, and online via Zoom, 2023, 1.7.

## 4 学会発表(国内)

① 発表者名、発表タイトル、学会名、開催地、開催日

1. 村山陽, 長谷部雅美, 山崎幸子, 山口淳, 小林江里香: 時間的貧困状態にある単身中高年者における余暇志向. *日本老年社会科学会 第64回大会*, 東京, 2022. 7.2-7.3.
2. 小林江里香: 老年学調査への身体機能・バイオマーカー測定の導入—全国高齢者パネル調査(JAHEAD)を事例とした学際的調査の課題(シンポジウム「『学際的』な老年学研究のこれまでとこれから; 自分の『領域』をどのように越えるのか?」). *日本老年社会科学会第64回大会*, 東京(桜美林大学), 2022.7.2-3.
3. 小林江里香: 通いの場の担い手としての住民参加(自主企画フォーラム「住民主体の多様な通いの場とは—学際的な意義と課題」). *日本老年社会科学会第64回大会*, 東京(桜美林大学), 2022.7.2-3.

4. 山下真里, 清野諭, 森裕樹, 横山友里, 小林江里香, 服部真治, 藤原佳典: COVID-19 流行以前と比較した社会活動の実施状況と孤独感の関連. 日本老年社会科学会第 64 回大会, 東京 (桜美林大学), 2022. 7. 2-3.
  5. 深谷太郎, 小林江里香: 就労経験が高齢者の ICT 利用に与える影響. 日本老年社会科学会第 64 回大会, 東京 (桜美林大学), 2022. 7. 2-3.
  6. 野中久美子, 村山洋史, 村山幸子, 倉岡正高, 村山陽, 小林江里香, 藤原佳典: 日常生活支援提供意向が高い若中年層の特徴—異世代・同年代間での手段的・情緒的支援の授受経験との関連から. 日本老年社会科学会第 64 回大会, 東京 (桜美林大学), 2022. 7. 2-3.
  7. 村山陽, 長谷部雅美, 藤原佳典: 高齢者におけるジェネラティビティと互恵性規範が世代間援助の授受に及ぼす影響. 日本世代間交流学会 第 13 回大会, 東京, 2022, 9. 13.
  8. 村山陽, 山田耕平: 経済的困難を抱える単身中高年男性の支援において相談員が抱く倫理的ジレンマとその対処. 日本応用心理学会第 88 回大会, 京都, 2022, 9. 17-9. 18.
  9. 山崎幸子, 村山陽, 長谷部雅美, 山口淳, 山崎幸子, 小林江里香: 単身中高年者における隠れ孤独の存在と精神的健康. 日本心理学会第 86 回大会, 東京 (日本大学文理学部) /オンライン, 2022, 10. 7-10. 9.
  10. ターン有加里ジェシカ, 小林江里香, 岡本翔平: ソーシャルサポートの量とバランスが日本人高齢者の主観的ウェルビーイングに与える影響. 日本心理学会第 86 回大会, 東京 (日本大学文理学部) /オンライン, 2022. 9. 8-11
  11. 村山陽: 世代間交流によるソーシャル・キャピタルの醸成. ソーシャル・キャピタル研究会, Web 開催, 2022. 7. 21.
  12. 長谷部雅美, 村山陽, 山崎幸子, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における公的サービスの利用意向に関連する要因の検討. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 甲府, 2022. 7. 2-7. 3.
  13. 村山陽, 長谷部雅美, 山崎幸子, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における生活時間が時間的切迫感を介して精神的健康に及ぼす影響. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 甲府, 2022, 10. 7-10. 9.
  14. 岡本翔平, 坂元晴香, 駒村康平, 小林江里香: Healthy ageing の経済的便益: 逸失賃金と医療費・介護費による推計. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 甲府, 2022, 10. 7-10. 9.
  15. 深谷太郎, 小林江里香: 独居高齢者の対面・非対面接触と孤立感および生活満足度との関係. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 甲府, 2022. 10. 7-9.
  16. 山中信, 根本裕太, 植田拓也, 小林江里香, 倉岡正高, 森裕樹, 田中元基, 谷出敦子, 藤原佳典. 高齢就労者における仕事に対するやりがいおよび負担感とフレイルとの関連. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 甲府, 2022. 10. 7-9.
  17. 小林江里香: 「高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究 (JAHEAD/NSJE)」の表と裏—全国高齢者パネル調査の35年間の苦闘を振り返る. 2022年度第1回 CGSSセミナー (主催: 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター), 2022. 5. 24 オンライン
  18. 小林江里香: 「全国高齢者パネル調査」の特徴と使用上のコツ—新公開のWave8 (2012)を中心に. オンラインセミナー (共催: 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター・東京都健康長寿医療センター研究所), 2022. 10. 26.
- (以下、12月～3月見込み)
19. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 西田希, 山田耕平, 尾上勉: 多職種・地域連携教育を含めた世代間交流プログラムの効果. 日本発達心理学会第 34 回大会, 大阪, 2023, 3. 3-3. 5.
  20. 村山洋史, 小林江里香, 杉澤秀博. ライフコースにわたる経済的不利の軌跡パターンと高齢期の精神的健康. 第 33 回日本疫学会学術総会, 静岡, 2023. 2. 1-3.

21. 百瀬由璃絵, 小林江里香: 高齢期の社会的排除・持続的貧困がもたらす負の軌跡—入院・入所・死亡. 数理社会学会第74回大会, 2023. 3. 7-8.

## 5 著書等

1. 村山陽: コロナ禍における自立相談支援機関の課題と展望に関する調査研究, 『全労済協会公募研究シリーズ(83)』一般財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会(編), pp. 87-131 2022年9月
2. 村山陽: 第14章1. 地域ボランティアとの世代間交流を通じた高校生のキャリア発達に及ぼす影響: 3年間の縦断調査から, 『世代間交流の理論と実践3 新たな社会創造に向かうソーシャルネットワークとしての世代間交流活動』溝邊和成・村山陽ほか(編著), 三学出版, 2022年11月 刊行予定
3. 小林江里香: 生活機能の自立・非自立、都市規模別にみた高齢者. 内閣府「令和3年度 高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査結果(全体版)」, pp. 143-155, 2022. (6月公表)

## 6 受賞

1. 小林江里香(研究副部長)、日本老年社会学会論文賞、下記論文に対して、2022年7月2日:  
小林江里香, 原田謙, 斎藤民「都市部の中高年就労者における地域活動への参加—仕事特性および主観的ウェルビーイングとの関連」 老年社会科学, 43(1), 36-48, 2021
2. 村山陽、日本世代間交流学会優秀論文賞、下記論文に対して、2022年9月3日:  
村山陽, 竹内瑠美, 安永正史, 山口淳, 藤原佳典「小学校における高齢者の読み聞かせボランティア活動が児童の共感的関心の向上に及ぼす影響—親密な関係性の構築に着目して」 日本世代間交流学会誌, 11(1), 13-22, 2021
3. ターン有加里ジェシカ(令和3年度非常勤研究員)、日本心理学会第86回大会学術大会優秀発表賞、下記発表に対して、2022年10月24日:  
ターン有加里ジェシカ, 小林江里香, 岡本翔平  
「ソーシャルサポートの量とバランスが日本人高齢者の主観的ウェルビーイングに与える影響」